

1. 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請書

受理年月日 年 月 日(事務局記載)

一般社団法人 日本周産期・新生児医学会

理事長 殿

専門領域(該当する専門領域にチェックを入れてください)

小児外科 脳神経外科 心臓血管外科 泌尿器科 その他()

私は日本周産期・新生児医学会 認定外科医について、必要書類及び申請料を添えて申請いたします。

ふりがな			(西暦) 年 月 日 生 歳
申請者氏名 (認定証記載名)			性 別 <input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女
医籍登録番号	第 号	医籍登録年月日	(西暦) 年 月 日
外科系診療科 専門医取得年月日	(西暦) 年 月 日	日本小児外科学会* 指導医認定期間	(西暦) 年 月 日 ～ 年 月 日
専門医番号		指導医番号*	
会員番号		入会年月日	(西暦) 年 月 日
自宅住所	〒 -		
勤務先	名称	(所属科名)	
	住所	〒 - 電話 - - (必須)E-mail	
(西暦) 略 歴 (卒業大学と入会年月から現在まで、最大10項目まで記載する)			
年 月	大学 卒業		
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			

※認定証は、会員情報に登録されている「送付先」に送付する。申請書提出後に異動した場合は、会員ログイン後のマイページあるいは「会員登録の変更」内の「変更オンライン登録」から「送付先」の変更を行い、速やかに事務局に連絡すること。日本小児外科学会指導医資格を取得している場合は、症例要約の提出は不要です。

*:小外科学会指導医資格以外で申請する場合、記載は不要です。

2. 症例要約-1 (新生児症例用) ※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 1		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【入院時診察所見】:			
【入院時検査結果】:			
【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 2		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 3		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 4		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 5		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 6		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 7		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 8		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 9		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 10		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 11		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 12		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 13		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

注:母体・胎児領域が研修施設ではない場合,新生児症例 15 例でも申請可とする. 出生前診断用を記載する場合は, 症例番号 13~15 は不要.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 14		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

注:母体・胎児領域が研修施設ではない場合,新生児症例 15 例でも申請可とする. 出生前診断用を記載する場合は,症例番号 13~15 は不要.

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 15		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*: 入院中: 主科を問わず外科の治療を継続している 転科: 他科主科となり外科の治療は終了している.

注: 母体・胎児領域が研修施設ではない場合, 新生児症例 15 例でも申請可とする. 出生前診断用を記載する場合は, 症例番号 13~15 は不要.

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 1		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*: 入院中: 主科を問わず外科の治療を継続している 転科: 他科主科となり外科の治療は終了している。

※所属している施設が本会の母体・胎児領域の研修施設の場合は、症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 2		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
<p>【主訴】:</p> <p>【現病歴】:</p> <p>【入院時診察所見】:</p> <p>【入院時検査結果】:</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 3		施設番号	
西暦 年 月生	男・女	在胎 週 日	出生体重 g
受持開始時日齢		受持期間	月 日 ~ 月 日
診断名			
手術名 ※手術した場合のみ記入			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴			
妊娠分娩経過			
【主訴】: 【現病歴】: 【入院時診察所見】: 【入院時検査結果】: 【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患児・家族へのサポートと考察】:			

*: 入院中: 主科を問わず外科の治療を継続している 転科: 他科主科となり外科の治療は終了している

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 患児の出生年月・受持開始時日齢・受持期間に齟齬がないようにする.

3. 指導医推薦状 (新生児症例用)

私は、指導医として、 _____ (認定外科医申請者名) の

症例要約を、新生児症例として適切であることを認めます

指導医名(自署) _____

施設名 _____

新生児指導医は以下の URL で確認できる。

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiS.aspx>

指導医推薦状 (出生前診断用)

私は、指導医として、 _____ (認定外科医申請者名) の

症例要約を、母体・胎児症例として適切であることを認めます

指導医名(自署) _____

施設名 _____

注：新生児症例を 15 例提出する時は不要。

母体・胎児領域の指導医は以下の URL で確認できる。

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiB.aspx>

4. 取得単位集計表

【必須単位】				
(1) 日本周産期・新生児医学会	10 単位	参加	回	単位
	5 単位	発表	回	単位
(2) 周産期学シンポジウム	10 単位	参加	回	単位
	5 単位	発表	回	単位
(3) 日本産科婦人科学会・日本小児科学会・日本小児外科学会	5 単位	参加	回	単位
	5 単位	発表	回	単位
(4) 学術論文(査読あり) (筆頭または corresponding author として発表)	10 単位		編	単位
(A)	(1)~(4)の合計(10 単位以上が必要)			単位
【その他の単位】				
(5) 学術論文(査読あり) (共著者として発表)	5 単位		編	単位
(6) 学術論文(査読の有無を問わない) (筆頭著者として発表)	5 単位		編	単位
(7) 日本新生児成育医学会・日本麻酔科学会・日本母体胎児学会	5 単位	参加	回	単位
	5 単位	発表	回	単位
(B)	(5)~(7)の合計			単位
(A) + (B)	総合計(20 単位以上が必要)			単位

参加・発表の単位は、申請する年の3年前の7月1日から申請年の7月31日までの期間に限り記載できます。

発表及び論文は、新生児外科領域に関連するものに限り、ます。

※1: 学会での発表は、新生児外科領域の筆頭演者に限ります。抄録のコピーを1部添付してください。

※2: (4), (5)の学術論文は、本学会の認める査読制度のある学術雑誌で、かつ査読を受けた論文に限ります。別刷(コピー可)を1部添付してください。(6)は査読制度の有無を問いません。別刷(コピー可)を1部添付してください。

※投稿中の論文は受理票及び論文のコピーを添付してください。

5. 学術集会参加記録簿

参加日 (西暦)	学術集会参加証貼付	必須 単位	その他の 単位
小 計		単位	単位
合 計		単位	

- ・学術集会参加記録簿は, 必要な枚数をコピーして使用してください.
- ・参加証はオリジナルの提出が原則ですが, 名前の記載がある参加証はコピー可とします.
- ・学術集会発表の場合は, 抄録のコピーを添付してください.
- ・第 38 回周産期学シンポジウム(2020 年 2 月開催)の参加証明は, 参加証と出席証明書のいずれの提出も必要です.

6. 学術論文刊行記録簿

著者名, 論題, 誌名, 発行年, 頁の順に記入	単位	査読*
合 計	単位	

- ・ 新生児外科領域に関連した論文に限ります。
- ・ 学術論文は別刷（コピー可）を添付してください。
- ・ 取得単位集計表（4）,（5）の場合は、論文が査読を受けていることを必ずご自身で確認してください。
- ・ * :（4）,（5）については、査読があることを確認後、査読欄に○印をつけてください。

1. 症例要約簿記載例

1) 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 1		施設番号	NA00000
西暦 2015 年 2 月生	男・女	在胎 26 週 3 日	出生体重 820 g
受持開始時日齢	6	受持期間	9 月 15 日 ~ 5 月 20 日
診断名	特発性小腸穿孔		
手術名	小腸部分切除術		
手術時の役割	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴	特記事項なし		
妊娠分娩経過	母 35 歳、G1P。胎児仮死にて在胎 26 週 3 日に緊急帝王切開となった。		
<p>【主訴】:腹部膨満、腹壁色調不良、腹腔</p> <p>【現病歴】:胎児仮死のため、緊急帝王切</p> <p>断でサーファクタント使用。PDA は自然閉鎖。日齢 3 より母乳開始。日齢 6 より上記主訴出現したため当院 NICU 搬送</p> <p>【入院時診察所見】:腹部は膨隆し暗緑色に変化していた。</p> <p>【入院時検査結果】:レントゲン上腹腔内遊離ガスを認め、エコーでは混濁した腹水貯留を認めた。</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:全身状態が保たれていたため、搬送同日に手術施行。回盲部から 5cm 口側に 8mm 大の穿孔を認め、同部位を切除し小腸端々吻合を行った。術後経過は良好で日齢 10 から経腸栄養を開始し、順調にミルクアップ可能であった。</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:超低出生体重児で母がまだ入院中に当院搬送となり、ご家族の不安が強い状態であったが、新生児科、看護部、ケースワーカーとともに介入することで、理解を得ながら治療が可能であった。超低出生体重児ではあったが、頭蓋内出血も認めず、術後の経過も安定していた。</p>			

- ・すべての項目を 12 ポイントで記載し、診断に必要な検査結果を記載する
- ・具体的な病院名・施設名の記載はしない
- ・誤字・脱字がないか確認する
- ・略語を多用しない。初出時は略語のみではなく、フルスペルを記載する

記載症例を経験した施設番号を記載する

この部分の月日に齟齬がないか確認する

どれか 1 つ選んで○を付ける

どれか 1 つ選んで○を付ける。転科は他科主科となり外科の治療は終了している場合、入院中は主科を問わず外科の治療を継続している場合

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している

【記載上の注意】

新生児領域の施設番号は、下記 URL で確認する

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持時日齢・受持期間に齟齬がないようにする。

2) 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 1		施設番号	PA00000
西暦 2016 年 11 月生	男・女	在胎 36 週 6 日	出生体重 3902 g
受持開始時日齢	0	受持期間	11 月 23 日 ~ 12 月 23 日
診断名	仙尾部奇形腫		
手術名 ※手術した場合のみ記入	仙尾部腫瘍摘出術		
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手 第二助手
転 帰*	生存退院	死亡退院	転院・転科 入院中 その他
家族歴	特記事項なし		
妊娠分娩経過	妊娠 35 週 2 日に胎児超音波検査で異常を指摘され、当院産科紹介。胎児 MRI で仙尾部奇形腫と診断され、周産期カンファランスで検討した結果、妊娠 36 週 6 日、予定帝王切開による娩出の方針となった。		
<p>【主訴】:仙尾部腫瘤</p> <p>【現病歴】:在胎 35 週 2 日に胎児超音波検査で上記主訴指摘され、在胎 36 週 6 日に予定帝王切開で出生。出生直後に挿管し、腫瘍を保護して NICU 入院となる。</p> <p>【入院時診察所見】:外表所見に異常認めず。腹部は平坦・軟。臀部に児頭大の腫瘤を認める。</p> <p>【入院時検査結果】:血液検査に異常なし。エコー上は心疾患なく、腹部にも異常所見なし。腫瘍内は嚢胞成分が 7 割を占め、残りの 3 割に充実成分を認めた。レントゲンでは胸腹部に異常はなく、腫瘍内に石灰化病変を認めた。</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:全身状態は安定しており、日齢 1 での予定手術の方針となり、腫瘍摘出術を施行した。出血予防として、開腹下に正中仙骨動脈の結紮を先行して行い、臀部より腫瘍を摘出した。腫瘍は 1200g で病理検査結果では成熟奇形腫の診断であった。術後経過は良好で、日齢 30 に退院となった。</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:出生前診断例であり、出生前より母や家族へのかかわりを持ち、児の状態から母体への負担や様々な予測される児の状態を説明し、理解していただいた。産科、新生児科、麻酔科など多科合同カンファを行うことで、十分な準備を行い、スムーズな診療が可能であった。手術に関しても血管処理を開腹下に先行させたことで術中出血がコントロール可能であった。</p>			

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している

※母体・胎児領域が本会の研修施設の場合は、症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。

【記載上の注意】

母体・胎児領域の施設番号は、下記 URL で確認する

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>